

# 大正島今昔帖とは？

大正区には、川と海に囲まれた特徴的な風景や「大大阪」時代を彷彿とさせる近代史の面影などの多彩な魅力があります。

今般、区内でボランティアガイドを行う「大正区の歴史を語る会」のご協力を得て、これまで取り上げられることが少なかった大正区の隠れた魅力を掘り起こし、「歴史」「水辺」「橋」「沖繩」の4つをテーマに、今昔物語としてマップにまとめました。

あまりにも多くの魅力が発掘されたため、全てを掲載することができないかもしれませんが、区内では、さまざまなテーマでツアーガイドが行われていますので、ぜひ解説をお聞きいただきながら昔に想いをはせて、より深く大正区をお楽しみいただけたら幸いです。

大正区内のまちあるきガイドや  
ツアーの問い合わせはこちら

大阪市大正区役所市民協働課  
☎06-4394-9743



## JR・地下鉄 大正駅へは

- 大阪からJR大阪環状線で11分
- 天王寺からJR大阪環状線で8分
- ユニバーサルシティからJRで13分(西九条乗換)
- 心齋橋から地下鉄長堀鶴見緑地線で6分

発行：大阪市大正区  
協力：大正区の歴史を語る会  
編集：一般財団法人大阪市コミュニティ協会  
イラスト：能勢将人 マツモトユキコ

※このマップは、大阪市区政推進基金(みなさまからの寄付)を活用して作成しています

# 大正島

# 今昔帖

## 続の巻



## 「大正島はおきなニワんの島」

明治以来、大正区では紡績工場や造船所などが相次いで建設されたことから、工場・港湾労働者が集まる工業地帯として発展してきました。これらの工場に働き口を求めて労働者が集まり、なかでも沖縄県出身の方が多く移住されることとなりました。現在、沖縄にゆかりのある方々が区内人口の4分の1を占めるといわれ、毎年行われるエイサー祭りでは、近隣府県の沖縄出身者のみならず、たくさんの方が集う一大イベントとなっています。また、大正区では、大阪と沖縄の文化が融合した独自の文化も生まれており、「沖縄」と「大阪」の食材を組み

合わせた「おきなニワんフード」が新たな名物となっています。



## 「脱走兵マックスアルテルト」

大正4年(1915年)9月4日、ドイツ兵を収容していた大阪俘虜収容所から海軍一等主計マックスアルテルトが脱走します。その逃避行を追ってみると、収容所の板塼の一部を外し、出入り業者に用意させた和服を纏ったアルテルトは、大阪駅まで人力車で向かいその後神戸へたどり着きます。翌5日には、下関から、門司港に。「織物商・樺島三郎」と称し旅館に宿泊を試みるも、あえなく失敗。2日間さまよい続けた7日の朝、韓国へ渡る乗船券を求めているところで逮捕されました。アルテルトは、中国に残してきた妻子を連れて本国ドイツに戻るために脱走したと述べており、その後、<sup>にのしま</sup>似島俘虜収容所へ移った後も脱走を企てたことで「脱走王」の異名がついたそうです。



## 「大阪競馬場」

昭和3年(1928年)に大阪で初めて競馬が行われることとなり、その最初の開催地に選ばれたのは南恩加島でした。当初は鶴町での開催を予定していましたが、埋立て間もないため地盤が軟弱で建設工事が進まず、最終的に近隣の南恩加島に建設されました。「大阪競馬場年次成績表」によると1月7日から3日間で、出場馬数85頭、有料入場者数32,637人、入場券売上高170,509円(現代貨幣価値に換算して約4億2千万円!)と大盛況だったそうです。しかしながら、こちらも埋立地であったため軟弱な地面が競馬に適さず、わずか3日で幕を閉じることになりました。その後、城東区や八尾市などでも開催されましたが、戦局の悪化に伴い、いずれも廃止されました。



## 「<sup>よなばる</sup>与那原大綱曳」

沖縄県与那原町の伝統行事「与那原大綱曳」は、400年以上前から豊年祈願の神事として始まり、この大綱曳に参加すると無病息災、子孫繁栄のご利益があると言われていています。大正区では、沖縄本土復帰40周年・大正区制80周年にあたる平成24年(2012年)に、「綱・ちゅら・エイサー祭～与那原大綱曳 in 大正区～」を開催しました。その際、与那原町で実際に使用された大綱を大正区まで運搬。全長90m、最大直径2m、重さ5トンにもなる大綱を、約1400人の参加者が東西に向かって引く様子はまさに圧巻!与那原大綱曳は、「曳き清らさ、勝ち清らさ、負け清らさ」と言われ、勝敗が決まった後もお互いの健闘をたたえあいました。



# 大正島今昔帖

## ～琉の巻～とは？

大正区で感じることができる琉球の風を堪能するまちあるきコース。北恩加島・平尾エリアなど区の中央部をメインとしています。

歩行距離：約6km

所要時間

100分

地図のみかた

### S スタート地点

#### 大正区コミュニティセンター

地下鉄・JR「大正駅」より市営バスのりば2番・4番・5番の「鶴町4丁目」「西船町」「地下鉄住之江公園」行きに乗車後、「大正区役所前」バス停下車すぐ

### G ゴール地点

#### 「平尾」バス停

24h コンビニエンスストア



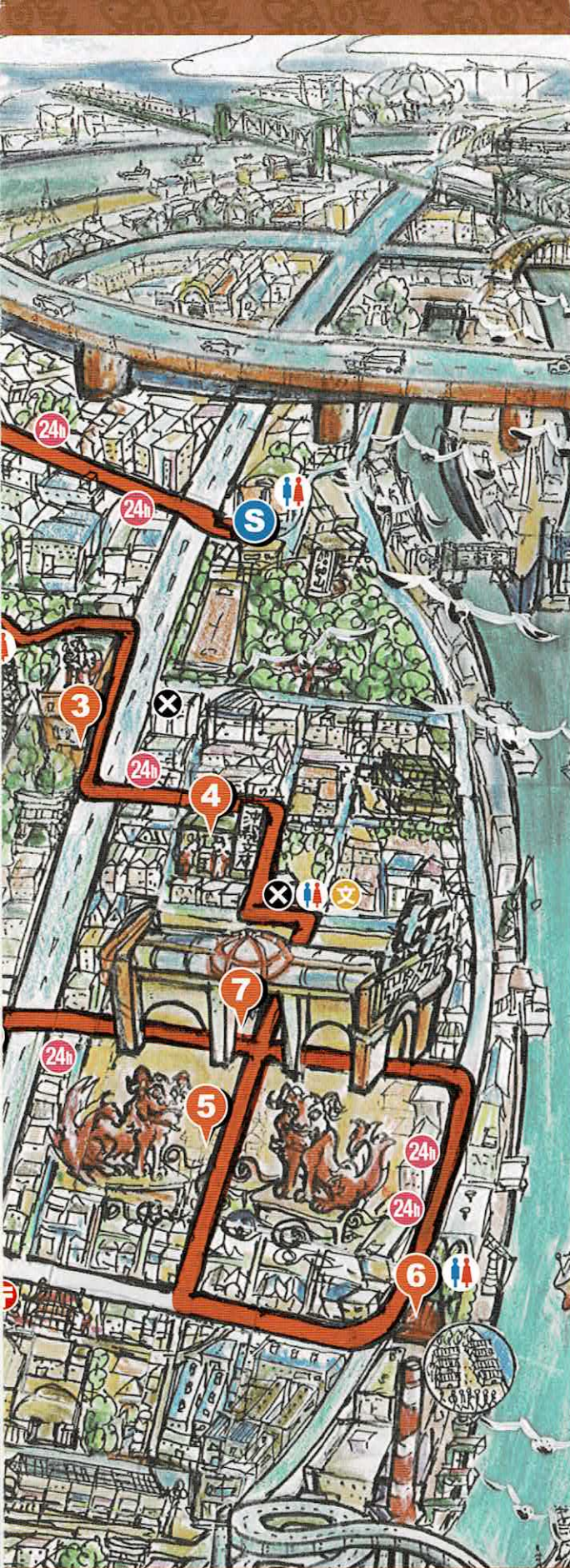
## ① 北恩加島周辺

この地は、江戸時代、岡島嘉平次により開発された土地で、その功績をたたえて開拓者の名前から恩加島新田と名づけられました。「恩加」には、後世に恩を与えるという意味が込められています。明治時代は、紡績や鉄鋼をはじめ産業が栄えたことから、他府県から多くの労働者が出稼ぎにやってこられ、沖縄県出身の方が多く移住されることとなりました。昭和の時代には土地区画整理事業が行われ、北恩加島の住居や店舗は現在の平尾などへ移転することになります。

## ② 千歳橋と千歳渡船場

現在の千歳橋は、平成15年(2002年)に架けられた区内で最も新しい橋ですが、実は2代目になります。初代千歳橋は、昭和32年(1957年)に大正内港建設のために撤去され、その代替として千歳渡船場が設けられました。鮮やかなブルーを基調とした千歳橋は近隣の港大橋、なみはや大橋と並んで景観にも配慮したシンボル性の高いもので、大正区の新しいランドマークとなっています。千歳渡船場は区内にある7つの渡船場の内、最も長い航行距離(371m)を持ち、鶴町側からは、多くの船が浮かぶ大正内港越しに昭和山や千島団地等を望み、尻無川の広々とした河口風景ともあいまって、ウォーターフロントの美しい景観となっています。また、大正区が舞台となった連続テレビ小説「純と愛」では、渡船に乗って大正区に通動するシーンの撮影が行われたこともあり、多くの観光客が訪れています。





### ③ 大阪沖縄会館

大正区は、区民の4分の1が沖縄にゆかりのある方々と言われています。昭和21年(1946年)に大阪沖縄県人会連合会が結成され、昭和49年(1974年)、本土復帰記念事業の一環として大阪府、大阪市、沖縄県の支援で建設されました。会館内には、大阪沖縄県人会連合会の本部をはじめとして、沖縄関連のお店などが入り、大阪と沖縄をつなぐ拠点となっています。

### ④ 関西沖縄文庫

昭和60年(1985年)に開設された私設図書館(定休日:月曜日)で、沖縄関係の書籍やCDなど約8000点を所蔵しています。大正区沖縄フィールドワークの開催や三線教室を実施しています。

### ⑤ 平尾の街並み

平尾は、江戸時代から明治時代にかけて畑や水田が広がるのどかな農村風景が続いていました。戦後、土地区画整理事業が行われ、北恩加島にあった建物がこの地に移転することとなりました。その際、北恩加島に居住していた多くの沖縄にゆかりのある方々がこの街に移住されたことから、現在でも沖縄の風習が残っており、家の玄関先には魔よけとしてシーサーを、丁字路や三叉路では、突き当たりの家屋へ魔物が侵入するを防ぐ石敢當いしがんとうと言われる石碑を見ることが出来ます。

### ⑥ 大阪俘虜収容所跡

大正3年(1914年)、第一次世界大戦中に、青島モンクオで捕虜となったドイツ兵が、国内12ヶ所の俘虜収容所に収容されることとなりました。そのうちの1つが、大阪俘虜収容所です。施設内では、労働を課されることはなく、体操やサッカーなどのスポーツを楽しみ、演劇や音楽演奏会の開催を行うなど比較的自由に過ごすことが許されたそうです。また、捕虜の中には、後に神戸で菓子店「ユーハイム」を開店するカール・ユーハイムや日本で初めてベートーヴェンの「第九」を指揮したヘルマン・ハンゼンも含まれていました。大正6年(1917年)、伝染病流行の兆しが出たことにより施設本来の目的であった隔離施設としての使用が決まり、捕虜たちは広島県ヒロシマ似島への収容換が命じられ、2年2か月でその役目を終えました。(関連:裏面「脱走兵マックスアルテルト」)

### ⑦ 平尾本通商店街

地元の方が日常的に利用する商店街ですが、店先の商品にはさりげなく沖縄文化が浸透しており、季節によってはゴーヤや島らっきょうなど珍しい沖縄食材が手に入ることもあります。一部では沖縄食材を専門に販売するお店もあり、商店街周辺では沖縄料理のお店もたくさん見受けられます。毎年8月と9月にエイサー祭りが区内で行われ、この商店街ではエイサーを踊りながら練り歩くミチジュネーと呼ばれる行事が名物となっています。

※イラストマップのため、地図及び建物等の縮尺は実際とは異なります。